

けりて妖言の如く同日夜六時半時乙酉所南新堀二丁目より出火く漢揚  
際迄焼る此時町火消闘争不及い怪家人多く即死のものも有り

○二月新次南鑑振通用始 ○三月十三日より浅草芝居ちふく京妙満寺  
祖師開帳正月より新紀州道成寺の種清正公朝鮮より持来の火曼荼羅未

詳せむ ○三月下旬より山下ゆく虫屋落をせり上るる虫屋出  
組込せり上る者五中へ新換るもの  
○三月廿一日画人鉄形蕙蔵卒 名徳真水屋吉政門  
人ありて然り北尾政美

とらり一枚繪紙の紙のわまく画り畧更をわたりて世に流れ又系の黄華山が花浴一覽國中より  
ひく江戸一覽の圖をよみ辨本よむ神田の社にも江戸圖の款をさげたりは男を赤子といふ

○四月二日暮六時吉原京町二丁目より出火廊中焼亡 飯宅へ花川が町山の宿屋下  
橋裏やう ○四月中旬より薩摩彦根屋屋久々焼くは再再身以  
振つたより

○七月一朱金通用始 ○七月廿二日八月十三日曾大風雨 ○八月中霖雨  
東洪水 ○七月廿六日画人行桐處翁卒 卒一才 号前石 ○八月十五日夜中半の

如き怪歎二足水より南へ空中を花形光有り ○八月十七日園學老清水濱  
匠卒 匠千九入油師舎と号し程元也 ○今年夏より花隠といふ画工あり 様花を画  
ゆりといふ教種の形状をよみ

○九月赤城郡林奈後の町牛込横町不火サ五尺餘の獅子  
次二を他へめて飾り諸人見るといふ今年より多積の日樹次不飾り此後  
子位又五尺餘れも大なる獅子次を作て飾り ○十二月廿五日時以芝田二丁目  
不火大同二丁目二丁目中川産服坂度仙者度は存出火焼込夜五時終火以

○武藏名所考法板成 冠山老也 江浦輝也 ○家夜十八卷字本成 江成道源田所代地十  
龜の輯あり此年よりとて一々の世の中の学術をあれとありてあるもの之を元龜傳を始  
り子もあり文化の以三川町二丁目より後板橋宿不傳りといふ

文政八年乙酉

是より秋へゆく連雨止む時あり ○正月七日浮世繪師歌川豊國死 年七十五 聖坂  
功運吉小葉次

梅窓吉一陽世と号し舟川豊美の門人ありて家老なり ○三月吉金雕三張富久卒 梅  
窓和公世を初れり門人数多し折為法性名の碑を建てたり

○三月七日曉烈風小傳る町ニ目ノ出火通油町る冷町未乾燒○ビヤボン  
と号一銀もく作りたる笛乃る小鬼の玩と云一不詳種笛 ○四月十日大風

○四月の始より藤八五文奇妙と叫て麻の葉を售ふりの粉を歩藤八五文を以て  
○四月廿六日浄福院浄法元延壽狀死浄法元

○四月廿六日儒師太田錦城卒六十才名元貞林ノ助 ○夏より秋に至り月を以て  
人を威して盜賊町中夜番警

○八月九日中川由義卒才天源寺早蓮寺と号し書とよく以て詩世を以て  
元祖より中川由義

○八月末南斗慧星現る○十二月十九日夜五半時葺岳町輝芝居より出火あま  
芝居焼元火坂町甚る歩つ町住吉町人形町の辺乾燒す○十二月廿七日

儒師河源遜齋卒四十才名遠業祥慈寺并紀州の人なり ○東近郊園板乃一枚板 中田惟善撰

文政九年丙戌

夏夜々地震○二月大雪ニ成降○日向流之わ洲和振荒人村閑燒

○減量惟念もよめて下野之田山如東閑燒○三月九日儒師龜田勝高卒才天源寺早蓮寺と号し書とよく以て詩世を以て

○秋に地震數度ある○今年遊女出菊が百年の忌

○七月九日暮時村田和回町より出

大南風きて東林田町額燒以○十月二日將野素川彰信卒○醫師大槻

盤水卒才天源寺早蓮寺と号し書とよく以て詩世を以て

同十年丁亥 六月間

五月二日夜九時過葺岳町より出火あま葺岳町輝芝居標あま芝居標町芝居

人形町通片側大坂町甚る歩つ町を燒す○二月國學若羽倉惟徳卒六十

○善より夏へむて江の島上の宮寺大文閑燒江戶より系譜より金

武江年表卷之三

九

浮標名も亦も開帳あり ○二月九日西窓光昭も主雲宝卒 七十五路山水を画く巧みあり又符をもく

○二月十日より浅茅も親世も卒格 ○牛御前王子持親開帳 ○深川八幡宮再修

○肥前國上益頭那文治右田村産火雲武を勝つと云ふ大男江左来る 今年

大寺寺量二十五夏月五年又守是名二守寺 ○南越人所武松縁之助編妻雷

五郎横綱免許 ○七月本々五日未日東側火除の為町家と取掛せしれぬ

達市の外跡は法門の外橋田未は之代地をある ○九月神田町村系礼儀

雇系止り附系十六益所は成るす亦より一雨せぬ 奥物三踊臺七條物六と空む引万

文政十一年戊子

正月八日夜浅茅幡隨院の辺より出火して又又東近敷焼くも院所後多焼亡也

○二月首書六時村田町武丁月湯毒より出火して東風にて西村田町一園より

新焼く又北風ありて本宿町本町石町駿河町室町の辺より一夜の夜玄の下

刻移る ○二月廿四日坊上も方丈火 ○春川口善光寺如來開帳 門前船渡の

後橋也 ○山王所系礼附系今年より廿五より成る 一と和より ○下谷小野懸寄

の社地石を置きて富士山成築く ○七月八日持所伴川院法中宗信卒 五十八

○鎌倉八幡宮御再建成 ○十一月廿日等覺院抱上人逝去 名釋真号文詮号

卯雨華卷より尾取光琳の画 ○儒師菅系本海卒 名基孫文系

同十二年己丑

今年の大小元禄十年不同ト云う さうく 角が火を起す あか の句と吸く く 役利と云

く く ○正月十八日大雪 ○二月十七日大風青羽より出 十 草野の辺連焼亡せり

○二月廿一日北風烈しく己の刻三村田坊上町武丁町の者の茂木小屋より火

出て村田川を飛く東神田武家町屋一系小焼失より東は西園橋源濱町辺

武家方より永代橋より西へ瀬田町通りを例移り東側より今川橋向

武家方より永代橋より西へ瀬田町通りを例移り東側より今川橋向

武家方より永代橋より西へ瀬田町通りを例移り東側より今川橋向

武家方より永代橋より西へ瀬田町通りを例移り東側より今川橋向

寺後町本町の岩沼塔通致寺塔外延南の杉橋塔通致を振りし  
 一は石の町へ本町石町大橋の町小橋の町馬喰町横山町辺一系櫻町車  
 登町為座芝居中登岩辺小網町八丁堀靈叢島鉄炮洲築地武家方西  
 門のより先海子小宮り佃島辻本橋町芝居系橋杉橋辺町及杉橋小及を  
 聖世二日然火以武家方杉橋殿へ南小九里餘東西二十餘町焼死溺  
 死の輩千九百餘人と云り此救の小屋九ヶ所を建てる敷焼の官員を救也  
 此時紀州吉野山燔死群冥菩提の為小  
 吊せあり石碑を建てる  
 ○四月六日未刺南風麻布長坂より  
 出火版倉斤町麻布谷丁辺赤坂溜池黒田家中郎源連焼亡々方雨降る  
 ○六月十九日より三日のる田向院まで焼死人供養別時念佛修りあり  
 ○當三月類焼の町へ集土を以て龍岡町より元岩井町迄のる除の六ヶ所  
 築せしむる  
 十箇不ふふとて敷合て五百半餘る  
 ○病る屋八幡宮氷代寺之困焼  
 中大

火中村四月七日連岡焼  
 手後再開焼あり  
 ○六月六日狂舟堂真類年  
 七十七才  
 小川志清  
 ○七月一系浪通用始る

○八月下旬大川通出水子位住来苗る  
 ○十月程分所社白庵厚磨修  
 林田  
 小位 月をとうれ出る夜はうれの  
 是 けさともう雪のりうり  
 ○曆原考一卷梓行  
 石井光致著

此年同紀事

○深川永代が鉄炮洲稲荷の内萱協町某所境内未小石を獲る富士山を  
 造る ○神田明神社地小富士浅石社を勧請し六月朔日奉請始る  
 ○赤坂大園茂正藩法中豊川稲荷有馬彦山藩法中水天宮御所池田彦  
 法中瑜伽山大権現園原村大聖院不動尊奉々奉後も親世音奉祈能  
 勢炭妙見宮未奉請始る又西新井越村も弘法大師牛込町南宗院  
 聖天宮谷中吉祥院奉天宮月正尊を鬼子母林信人の遊々奉請始る  
 ○深川清なる石像の上杉井杉杉の若多く像を水とて流走 ○杉井村梅照

院某師如末小兒出封トの加持とあり○盆程の松を茶葉茶葉年宵灯を造り  
救金とて賣買以テ南天燭の異と弄ぶ千珠本植本所賣茶葉盆程の松を造り  
りより又南天燭の異おもて造り

○盤橋の法帖流行○右布の汗毛拭きあり出尺寛永の右の毛紙不あを尺りの  
といふ件不布の手ぬぐひあり

○川越箭弓稲荷社下徳駒木村藤坊明後深川六郎  
堀一うら

○浅草平右衛門町小住後深川六郎  
堀一うら

の色の奇巧と案ト造り出尺中内四人を以てうら田十六と春一むるの若又自在藏と

号一居あつてみく織織る翁の奇巧なれどりまげうら田内四隣をささぐり自在藏は  
價せきむあはれす

を刻む翁と細糸と簡易小仏との二書今や別れり○白子盆桃灯切子焼茶籠

廢と粉色の茶花と画る桃灯りり和風橋の右より新我本町お林と云ふ所の橋やりの  
りつりより唐橋といふ物を作りて高ひ始り十九日

○白金三銘坂の山中庵頼月若の向耕亭ハ古き料理やあり一々あれも文政中ニ終り

○文政始のりより又故の石田五山が骨子墨田五山修徳印中下りて林田伴右衛門小住一けるが

或日家を去て後ゆふば常ふなる垢付一夜敷の俵まで修費も終りてゆふば中妻もありてさ  
隣のものに代ふられともゆふ方初れどは儉も次骨ふられ且婦人持てあり一惜むべし  
○禊の桃灯ふま画の巴を画くゆふは庵高深町のちやうちやとり始りて多画の輪窓を去  
の万字も次骨ふ出来り○中寄海猫橋再ひより出尺○同夏石古坂林中尺出あり

天保元年庚寅 三月間 十二月十六日改元

正月十四日夜下谷啓運と火○三月町火消長股大伐鋸始り○閏三月廿四日

粗奇脚六樹園飯蓋車七十八代石川氏名雅望と号国学ふを以男を塵外樓法隆といふ  
ともふれ奇とてくは又ふ若くは修り

○閏三月晦日電傳下谷の辺に燈ありさき  
同方廿八日或は廿九日

○夏の以寺院小のく雲稿ふ石塔を磨

き戒名ふ来を入るものり程なく止む○春の以よりや始り久保勢大神宮

おふ茶葉り流行一吹雪ふ徳園ふおより一ゆやよりも茶葉を若駭一

新町の若あり始りより四一系ふあり又系又改不種くまより徳園ふ及せしとて宝永の件ふりり  
如く乃中能仍の宿能仍後一なる智の美藤ふ降りて多請の茶葉とのを價を文りば酒飯茶葉ふを  
答一金湯を拭き履乃中要用の不とふふ真鏡の若といふも茶宮の若ハ秋と學く一とてを  
りてるは若くの教昌言語の及ふふふふとあむ十月の以より止む此時持移せる  
文政神異記といふ冊子小洋より京師の  
板より春木林亭といふ人の編り

○秋より浅草寺二王門修復○秋深川

降ふちあり甲州身延山祖師開帳○八月十七日麻布一本松氷川町社祭  
 礼四年目より産子の町より出へたり物未出る○九月廿二日夜雜司を  
 野乃瀧火火法明寺祖師堂釈迦堂外中の子を焼亡○十一月朔日為新井徳持  
鬼子母林堂并末社の町を焼く○十一月廿日画家觀鳥月  
七十余才名常雅晩年景納と号○十一月廿二日夜本所栗川町より出火砂村の辺  
其二峰の間に深川陽岳より出火  
 追焼亡○十一月晦日己申刻播磨三丁目より出火若松町横山町網町を餘武  
 家方木野焼○十二月八日夜下谷所切町より出火幡隨意院寺外寺院  
 町を焼亡○十二月廿二日夜四時小傳る上町より出火小傳る町より自大  
 傳る町二丁目通旅籠町新枝木町塚町草屋町為産芝居寺外野焼凡  
 六町小一丁半程焼る時七時時終るこの冬西く小伝るあり十月  
 八日九日八日及ふ  
 天保二年辛卯

三月五日より十九日迄龜戸天満宮開帳○暮より浅草本蔵より甲及山梨  
 那休息村三心寺祖師開帳○築地町石橋南千二百坪餘新親埋立地小あり  
 ○四月深川要津より長友妻の森下町に木綿の裁屑中を割るる本紙紙といふ物を  
 鎌始む○七月朔日遠山荷塘卒二十七八歳終念ふ小葬内外の書籍小流り又和曲月  
 琴を善く北西廂記淫歌月琴考胡言淫語本の編あり  
 ○七月廿四日儒師西服棠園卒名同終極五門  
 六十九才○八月七日戯作者十返舎一九終重田  
 氏名  
貞一卜谷と云店名終る小葬以中東陽院檀越あり○九月十二日より極の周妙法寺祖師  
群世此世をいふやとお暇せん番といふはひひあ灰を極あり  
 開帳○日蓮上人五百卒年忌供養法苑宗法寺勅仍○寺橋所門外不致て親世  
 左史勅進能身仍あり十月十六日と初日とて晴天十五日の万身仍の空あり  
 而天正外より翌年より日教の外日延身仍あり石の六月より信伊身仍の日教抄  
 筆集せり  
 ○十月廿二日日善里修性院の庵中不致て系師より下り不逞堂といふ人文字  
雲の字と書きた  
 堅廿五万横十九万仙色の紙を方式子枚焼  
 筆七石三斗草長式万米平廿筆極あり○十一月廿二日曉上野所本坊火

○十月廿九日夜本石原町出火大久保溪下中丸新焼

天保三年壬辰

土月間

正月二日曉五郎を焼町より出火北井原町有修町白魚屋谷屋外新焼

○三月より淡草草紙を中下徳助本村新防町新開地○四月十七日より二日

堺所申村高三并芝居十六日自新開地書札を再移○五月廿一日淡草草紙を町本

より豆及出法華を祖師開地○秋高徳泉岳寺山門再建樓上十六羅漢の像を排列

○八月十七日麻布氷川町新宗礼花中一遷物不出る中後中終を○九月廿如來

より芳佐を焼といふ若狭火の要具とて水車樋と号し井の水を繰上る器並

逆柄の柄杓を賣始む○十月新吹武米金通用○冬淡草草紙を觀世を開地

○九月廿一日下谷徳泉町千束福右の宗小修の花中一柄り物を出さる

吉原西河原の堀家より是を中とて蓋上りて遊女売若狭會十六人撰

落けるが各重丸融せかゝる○十月浮世繪師折川幸信卒 申命

○十月琉球人來聘 正使豊見城王子 前王の使澤抵坂方之 十六日江戸列島の日初雪降雪中

氷川歌ふく雪いと白くうらり移りてる哉

武苑の系とてあしといふいりて雪の初降をみる 申命

まご 奉りたる日

まご 奉りたる日 まご 奉りたる日

○閏十一月十九日寅刻親町出火夜明け移る○冬風邪流行後民法救案抄せあり

○續徳家人物志刊行 志新東里著之先小原の池永某が作 日本徳家人物志の後編

同 四年癸巳

二月朔日より奇島蓮花さきく富士山本名大目如來開地○不忍池并天

開地○芝泉岳寺新地八相曼荼羅并地中外西妙井修持寺江法大師塔

上吉甚喜海舟才天王子福右助并本下川某師如來日白聲明并多摩郡

井の沢舟才天新為越安盛妙見宮宗園庵○山容法吉老住後城系祖師宗庵  
 ○三月九日より淡路宗祖寺より系於本園寺祖師園庵○同廿日より永代  
 寺より下總成田山不動寺園庵を納寄進の品懸一○三月七日よりお忍に  
 の為下ノ宮舟才天新法江より諸人より○四月廿日より永代寺より  
 葛西法江村親正客入権現園庵○月二日より日向院より下總法苑  
 寺祐天上人徳普地系為園庵以時大なる殺殊をなせる縁の大きき○四月五日  
 淡草寺より太恭廣隆寺聖修子園庵○月八日より深川寺より小  
 田系澤系より祖師七面明神園庵○四月十五日羅漢寺三市堂修復成今日  
 昼時之中等の親世為像を遷次○六月淡路系より六天系礼今年より  
 昔の如く神樂を淡路○篆刻家益田勤成卒七才名清 字万頃○此夏靈巖島  
 東溪町の先小川辺靈神とてまゝ何の神とも知らば一時小系清群集しけ

るか終のろめりく止り或人の死小川を渡り水中よりより一瀬を○七月半の  
 たり湯島根生院の海上樹木の中小葉昏たり雀裁百ふとあり群り集るる或る

○八月朔日大風為家庭を損し樹木を折る深川三十三万堂半分倒るる  
 怪象人多り○今年米價を極く貴氏所の故の米砂を揚る事度之与有の

○谷中長輝山感應寺護國山天王と改む○十一月朔日夜  
 八下極下所代地福奉とる酒樓より山火近辺に焼せり

○江戸名所圖會挿紙此書の寛政中祖父長秋居士の遺稿先考縣磨の校訂あり  
 草務ぬり成りて降る不及いより一りの先考没後遠寄を降るべく庸者不委ねたるもの故に  
 冠のひりく鳥馬の強盗砂次今あつて悔れとるは此社探の源と先考ふおせえんおんあつて

天保五年甲午

正月七日中村佛庵卒八十才名景連林跡若史流海○二月七日山風烈り



登八時神田佐久男町二丁目琴師の家より出火し、即時小神田川を越て東  
 神田お玉が池の辺へ移り、一系小焼廣うり、お玉の舎旧名の邊へ移り、お玉の  
 田お玉が池より今川橋向平塚町石町平町宝町連東側一系傳る町平塚  
 安由町塩町増町葺屋町お登の芝居住吉町松波町大坂町小畑町辺こ  
 けろ小狭りる町へ少くも移る所なり、日本橋より先へ通り町筋東側八丁  
 堀美濃島の辺新川新堀永代橋邊近鉄砲所築地門前より海をまき本  
 橋町芝居佃島未悉く焼亡、方城去、丑年三月の火事小大なり、お玉の  
 ○同月九日烈風あり、所々火警時檢物所より火西側袋町通り一二丁目  
 近鉄燒を○同月十日登九時以大名小路の邊より出火し、松原の藩邸敷  
 宇根治橋内へ敷敷屋橋法門南船泊町終末町辺南傳る町根座町尾  
 濱町三十間堀新橋向本橋町築地邊芝口二丁目近鉄燒三度の燒亡あり、

長九を里幅平均あり十町の餘といふ燒死怪我人救ふべし、法救の小座  
 十箇より十二條と建られ、貞民を救をさる○同十三日未下刺釣辺九軒登  
 火より出火日本橋敷き、平武家 ○此節向少く風あり、火災なり、所々人々安き  
 あり○三月朔日より日未不動寺閑帳○同日より上野清水堂觀  
 世為宗焼○弘法大師十年忌共言宗を院新く、供養の碑をさる  
 ○三月、牛島高道花与生外弘法大師安宅の寺院宗焼○四月、法華寺本  
 藏より下總多古村お光寺祖師宗焼○法華寺町、お光寺より武州新  
 座郡  
 宗焼  
 宗焼 ○夏より秋へ多く旱○八月六日古草九代了意卒八十歳  
 ○八月三日中道寺実おとと改む○九月、崇宗二分判通用止○九月廿三日書  
 家松宗龍澤卒七十五歳、名龍章、稱主簿 ○十二月十九日晚丑刻法華寺東仲丁へ出火、六十餘燒亡

天保六年乙未 七月閏

正月十一日明六時止神田熾燭町より出火皆川町永富町松下町二河町等  
 丁目二河原倉河新近焼昼時お終る○四月廿四日子社中刻若永南町  
 より出火廊中焼く焼亡す 飯尾若川戸山の宿聖天町東仲町門前裏へ若田永町  
 等より三百日障りありて之地に移る  
 ○二月八日谷中茶屋町出火 この日茶屋  
 二河焼亡 ○二月九日津田町若永町より出火  
 聖堂殿より河原近焼亡○三月十日夜四谷より市谷近焼亡○三月より  
 淺草寺若永より及沼津妙海寺祖師宗焼○二月十日より不逞池赤子  
 天保焼○折島妙見宮焼○四月朔日より三圍編若園焼○四月より渋谷  
 長谷寺より永若洞觀世寺焼○四月より目黒山尊寺鬼子母林園焼  
 ○四月廿八日書家園光明亭 寺より移る  
 寺備 ○五月より芝神明宮焼月より  
 京越六波羅密寺寺若觀世寺焼○淺草寺奥山小韓信市人の跨り

勝る所の木偶と云々物々

人形大二三尺衣裳皆沙羅羅排木の製を用ふ  
 上は細工多し降る方のみを以て西より此の物あり

○六月廿五日未刻地震○七月より淺草寺若永より柴又村毀焼帝親  
 天板寺若園焼○閏七月朔日より回向院より鎌倉覺園若永師如來巨像若  
 日光月光十二林若永若佛宗焼○閏七月廿日將各振齋 二十一年名堂之内外の未焼  
 一人之修津燈を三つ並つ  
 ○閏七月十八日曉地震若永若永地震あり○九月より龍山小長幡山感應寺河建  
 五 法花  
 宗 聖年ありて本堂鐘樓徳門借房未焼く成焼 巍然と梵刹あり  
 移る處せられり  
 ○十月百文錢通用始り銭錢を造るる○野洲産人若永の難を貧困の病人并  
 給 官医石坂氏  
 製法 ○十月廿九日夜上野山内火○十二月八日夜下谷金松石橋若永  
 辺より出火全杉通り追焼亡

同 七年丙申

二月九日己刻地震○二月十六日より芝泉寺より八相曼荼羅園焼○三月朔